

みどりの絆
 緑崇流吟道緑水吟詠会会報
 平成二十六年 四月
 2014

NO.50
 総本部会報編集局発行
 緑崇流事務所
 〒630-8135
 奈良市大安寺西1-334-3
 TEL/FAX.0742-35-6719
 E-mail/m-net@mvf.biglobe.ne.jp

所感



会 主 会 長 箕 輪 緑 隆

新年度が始まり気分も新たに、新緑が春の光に映える心地よい好季節となりました。過去をゆっくり振り返ったり新天地に胸をときめかせたり、人の出入りの多い時期でもあります。

皆さまにおかれましては、益々ご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、平素は当会に何かと

真心のご支援と変わらぬご厚情を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、来る平成27年は緑崇流吟道緑水吟詠会創立40周年を迎えるにあたり、その大事な節目に緑崇を襲名させて頂く運びと相成りました。今まで数々の取り組みにご理解をいただきましたので、ここまで歩んでこれた方のご支援によるものと感謝いたしております。相互の連携の強化を図りながら緑崇流の絆を更に深める機会にもして行きたいと願っております。また、日本人の心に宿る詩吟は、古きものへの信頼が根底にあります。私は伝統に基づきつつ進むべき道を初心を忘れることなく引き締めて緑崇流の発展のため、精進して参る所存でございます。

さて、6年後の2020年にはオリンピックが開催されることで未来

と夢に向かつて様々な分野で明るい話題が広がっている昨今、日本はいろんな問題が山積みです。換言すれば新しい時代を迎えていることなるのでしょうか。変化の速い現代社会ではありますが、ゆつくりとご自分の可能性に向き合って充実の日々を送って頂きたいと思えます。

吟ずれば自ずとピンと背筋が伸び、いつまでも若さを保ち、通じあえる仲間との交流が体力と気力のバランスをとってくれます。そして、これからの会員皆さまの活躍が緑崇流吟道緑水吟詠会を支える大きな力となることを確信する次第です。

最後に私は緑崇を襲名するにあたり、より一層の研鑽に努め、限りなき前進を心がけて参ります。また、皆さまには健康に十分注意され詩吟を通じ、充実した日々を楽しんでいただけるようお願い申し上げます。

平成二十六年四月吉日

(自宅書斎にて)



《お知らせ》

緑崇流吟道緑水吟詠会

二代目宗家箕輪緑崇襲名披露並びに会創立四十周年記念祝賀会

日時：2015年10月11日(日)

11:00 ~ 15:30

場所：シエラトン都ホテル大阪

大阪市天王寺区上本町 6-1-55 TEL: 06-6773-1111



会報 50 号発刊記念特別企画！

歴代編集長座談会

会報 50 号発刊に至るまで、縁の下で尽くされてきた歴代編集長。そこには数々のエピソードやご苦労もあったはず……。

50 号発刊を記念して、陰となり会報発刊を支えてこられた歴代編集長にスポットライトを当て、紙面を賑わしていただきました♪

(敬称略)

司会
米田

本日は、お集まり戴きありがとうございます。初めに、昭和 58 年に創刊された頃のことからお聞きしたいと思います。緑水流が生まれて 8 年目に会報が立ち上がったと創刊号に書かれています。発刊に至りたいきさつや苦労された話などお聞かせください。

宮原

最初は渡辺緑心さんが事務局長で、事務局長から会報を出したいという話があり、佐野先生とご一緒に始めました。すると、原稿がたくさん集まり、B4判裏表で始めたのですが入りきらず、この調子だと 2 か月に 1 回でも発刊できるのではないかと!? という嬉しい悲鳴を上げたものです。苦労はしていません。箕輪会長は「無理せず原稿が集まった時点で発行すればいい」と。最初の座談会は 17 号に掲載されていますね。

司会

松村

年頭に当たっての、新春座談会ですね。

宮原

河田

宗家会長宅で行われました。私も行かせて頂きました。もう、その頃は編集委員になっていたと思います。

記念すべき創刊号



宮原

会員同士のつながりを深めていこうということで、会員だけでなく家族の方にも知ってもらおうという趣旨で会報をスタートしました。最初の頃は順調でしたが、途中で財政が厳しくなりました。というのも、会員が多い分、部数も多くまた、発行回数も多いので費用がかさみ、苦しい時もありました。

佐野

そのうち、私も佐野先生も詩吟の大会の役が回って、忙しくなり、会報の文章をまとめるのが、なかなか大変で、よくミスプリがありました(笑) 編集会議を宮原先生のお宅でもやりましたね。高槻の山奥にお家があり、終わった後、みんなでワラビを採りに行ったりしました(笑)

司会

やり始めの苦労はなかったがむしろ途中での苦労が多かったという事ですね。

宮原

最初の会報の名称は「緑水流吟道緑水吟詠会会報」でスタートしました(1~33号まで)次に、編集長が私から佐野先生に代わった後に「緑のたより」になった。

河田

会創立 20 周年の後の 34 号からです。

松村

それは会創立の記念祝賀会があつて、その特集を組もうとしたのを機に会の雰囲気を変えようという事で「緑のたより」に変えたと思います。

佐野

その時の会報は「ニュース東西南北」をひねって「東西南北」となっていました(笑)

松村

38 号からまた「東西南北」に戻ったのは、どうも印刷屋さん「東西南北」は間違っていると判断し、直した可能性



宮原 天皇陛下崩御の時には、急遽特報として一面に写真を載せましたがその写真は実は週刊誌からとったものだった(笑)

司会 その時は、歌舞音曲が中止という事で当会も、初吟大会が中止となりましたね。ちょうど大会の前日に亡くなられたので…。

河田 しかし、府連出場者決定を兼ねていたので、会場に来た人は全員決定となりましたね。



歴代編集長

思い出の会報①



松村

ええ、宗家に「私が何とかします!」と言って紙の手配から印刷まで全て一人でしました!それが宗家リサイクルの時の会報です。印刷はコピー機で、原稿も構成も一人で、手作りの会報で写真も濃淡が



会報発刊の危機

宮原

しかし!松村さんの力で36号が発行出来た!

がありますね(笑) そういえば、宗家の考えで、麻雀用語をユーモア感覚に取り入れたものもありましたが、35〜37号までしか続かなかつた(苦笑) 会創立20周年が終わって次の号が出たあと、会の財政危機があり、会報も結局お金がかり、ちよつと発行を考えようか…という時期がありました。

司会

この後どうなりましたか? 「緑のたより」から「みどりの絆」に変わった時に横書きのタイトルから縦書きのタイトルに変わり、紙のサイズもB5からA4判となり、タイトルデザインも変えました。この時の編集長が白波瀬先生で、会員も高齢化になって紙面の詰め込まれた字よりも紙面を大きくした方が読みやすい、

松村

いや…ほんとうに、34〜37号の「緑のたより」の時が一番厳しかった…。

宮原

ハッキリしないし…とにかく安く上げるのに必死でした。こんな話も出ていた。会報を一部100円で販売したらどうか?しかし、それもどうか?という事で、じゃあ、宣伝を入れたらいいんじゃないか、ということ、会員のみなさんに会社経営・商店などなさっている方に一口いくらで、と協力して頂いた(34号)また、担当師範にも、名刺サイズの広告を出していただき資金集めをした。それによって次号(35号)が発行することが出来た。

河田

奥園緑水宗家逝去時(平成2年3月13日特別号)、会創立20周年記念祝賀会(平成8年2月29日)、会創立30周年記念祝賀会(平成18年42号)箕輪緑宗家逝去(平成19年43号)と会創立35周年記念祝賀会(平成23年47号)の5回です。



司会

何回かカラー版の発行がありましたね

司会

と。ページ数も8ページになりました(38号から)

松村

「みどりの絆」にした経緯は? 宗家のリサイクルがあり、そのタイトルが「たけんと」だったところから、宗家が「絆」を大切にしようという事で38号より「みどりの絆」になったのです。

会報発行歴

| | | |
|-----|-------------|----------------------------|
| 創刊号 | 昭和58年5月10日 | (初代) 宮原緑晃編集長 |
| 2 | 昭和58年7月10日 | |
| 3 | 昭和58年9月13日 | |
| 4 | 昭和58年11月8日 | |
| 5 | 昭和59年1月10日 | |
| 特別号 | 昭和59年1月10日 | |
| 6 | 昭和59年4月10日 | 宗家リサイタル特集号 |
| 7 | 昭和59年7月10日 | |
| 8 | 昭和59年10月16日 | |
| 9 | 昭和60年1月15日 | |
| 10 | 昭和60年4月9日 | |
| 11 | 昭和60年7月9日 | |
| 12 | 昭和60年10月8日 | |
| 13 | 昭和61年1月14日 | 会創立10周年 |
| 14 | 昭和61年4月8日 | |
| 15 | 昭和61年7月15日 | |
| 16 | 昭和61年10月14日 | |
| 17 | 昭和62年1月27日 | |
| 18 | 昭和62年4月14日 | 緑の会発足 |
| 19 | 昭和62年7月10日 | |
| 20 | 昭和62年10月13日 | クラウンリサイタル第1回 |
| 21 | 昭和63年1月26日 | 第一回吟行会 |
| 22 | 昭和63年7月26日 | |
| 23 | 平成元年2月14日 | |
| 24 | 平成元年7月25日 | |
| 追悼号 | 平成2年3月13日 | 奥菌緑水師急逝 1面カラー |
| 25 | 平成3年7月23日 | 会創立15周年緑水師偲ぶ会 |
| 26 | 平成4年1月7日 | (二代) 佐野緑扇編集長 |
| 27 | 平成4年8月11日 | |
| 28 | 平成5年2月9日 | |
| 29 | 平成5年7月27日 | 緑崇流に改流 |
| 30 | 平成6年1月11日 | |
| 31 | 平成6年9月13日 | |
| 32 | 平成7年1月10日 | 武道館合吟女子日本一 |
| 33 | 平成7年10月3日 | |
| 記念号 | 平成8年2月29日 | 会創立20周年 |
| 34 | 平成9年10月 | 緑のたより |
| 35 | 平成10年12月 | |
| 36 | 平成11年11月 | |
| 37 | 平成13年3月 | (三代) 白波瀬緑高編集長 箕輪緑崇リサイタル |
| 38 | 平成14年3月 | みどりの絆 |
| 39 | 平成15年4月 | (四代) 松村緑圭編集長 |
| 40 | 平成16年4月 | |
| 41 | 平成17年4月 | |
| 42 | 平成18年4月 | 会創立30周年 |
| 43 | 平成19年4月 | (五代) 河田緑輝編集長 箕輪緑崇師急逝 |
| 44 | 平成20年4月 | |
| 45 | 平成21年4月 | |
| 46 | 平成22年4月 | |
| 47 | 平成23年4月 | 会創立35周年フルカラー |
| 48 | 平成24年4月 | |
| 49 | 平成25年4月 | |
| 50 | 平成26年4月 | (六代) 米田緑海編集長 |

宮原 えらい金あるやん!! (笑)
河田 年1回ですし、今はカラーも白黒も値段はかわりませぬね。
松村 時代が変わりましたね。パソコンのメールで印刷屋さんや取り取り出来る時代です。カラーも当たり前になりましたね。
河田 現に会報は、パソコンメールのやりとりで、修正・校正ができ、一瞬で済ますことができ、便利になったものです。また用紙サイズもB判からA判が標準規格になったので、これも安くなった要因ですね。

司会 次に、宗家の各支部訪問があり編集部員も一緒に取材の為に参加されておられましたね。

松村 支部訪問が始まったのは、宗家が「支部があっても支部の様子がわからない。担当師範がどう教えているのか? 支部の雰囲気はどうなっているのか、知りたい」という事から、宗家の提案で始まりました。支部訪問はハッキリと覚えています。最初の訪問先が甲南山手支部で、来られて楽しい

会報を見ながら、楽しく語られる先生方にはその当時から蘇るようで、想い出話は何時までも続くようでした。最後にはこれからの会報についての提言をいただき大いに参考にさせていただく次第です。
 本日は、歴代編集長の諸先生には、座談会に貴重な時間を割いて頂きありがとうございます。
 なお、三代編集長 白波瀬緑齋先生はご都合により欠席されました。
 (編集局)



ひと時を過ごしました。おまけに、お酒まで買って頂きました(笑)
河田 私も結構お伴させて頂きました。写真を撮り、記事にするというのが私の仕事でした。

歴代編集長 思い出の会報②

佐野 会報32号に吟剣詩舞道主催の武道館合吟大会で女子優勝の記事が出ていますね。笹川先生より優勝旗を戴き、畑野先生が優勝カップを受けられた当時の思い出がよみがえります。
松村 武道館女子優勝が一つの節目だった。
河田 男子は参加しただけでしたが、女子は前年度で7位の成績でしたね。
松村 宗家は「絶対優勝さす!」と。それが実現した!!



平成 25 年度昇段テスト並びにコンクール大会

高槻現代劇場 平成 25 年 4 月 14 日 (日)

《入賞者の歓びの声》

新人の部 優勝



曙支部
上岡 政廣

優勝などという言葉に全く縁の無かった私にとって、この度の栄誉はいつまでも忘れる事の出来ない喜びであります。宮原緑晃先生の熱心な並々ならぬご指導と、諸先輩のご親切の賜ものと厚く感謝してお礼を申し上げます。

詩吟との出会いは、知人から「詩吟は好きですか」と聞かれたことから始まり、しばらくして教室の見学に誘われ入会しました。

時間の経過に従って、吟詠の難しさが解かって来るようで、奥深さなど覗くことすら出来ない気持ちです。子供の頃の想いに漢詩は苦手だったというのがあり、難しい漢字が並んでいて読みがひっくり返るからでした。何事もそうですが、もっと勉強しておけばよかったですと反省することの多い今日です。

私は定年後十四年になり、色々な趣味を楽しんでいます、どれも中途半端でやりっ放しで、ひとつも極めることなく終わりそうです。

九十三歳の母が元気で習字を習い「今を生きる」と色紙に書いて飾って

います。歳を重ねるにつれ、つい弱音が出ますが、何時までも夢と希望を持って生きたいものです。習い始めたばかりの詩吟ですが一生懸命に勉強いたします。皆様方のご指導をお願いいたします。

二級の部 優勝



五領支部
西尾 康子

この度の昇段テストでの二級の部の優勝は、思いもよらない事で大変びっくり致しましたが、とても嬉しく思っております。

私が吟とご縁を戴いたのは、近くに教室がないかと思っていた時に、丁度開いて下さる人があり、全く詩吟に対して右も左も解らない仲間が集まって始まった教室でした。

特に吟は、お腹から声を出す事が如何に大切で、勉強すればするほど難しさを実感しているお稽古の日々ですが、白波瀬緑齋先生、井内緑叡先生の厳しくとも優しく、丁寧なご指導を戴き、とても感謝しております。

これからも焦らず楽しみながら精進して参りたいと思っております。ありがとうございます。

一級の部 優勝



曙支部
田野 庄藏

詩吟を始めて三年目余りの私が、思いもよらぬ優勝という身に余る栄誉を戴き、ただただ感激でいっぱいです。

私が学んでいます曙支部では新人の部で上岡さんが、七段の部で小谷さんが優勝を致しました。喜びも一入で、これもひとえに日頃懇切丁寧な、時には厳しくご指導戴いております。宮原緑晃先生のお陰と心から感謝しています。

私が詩吟を始めた切っ掛けは、宮原緑晃先生のお誘いでした。詩吟の事は何も解りませんでした。宮原緑晃先生の素晴らしい吟と、ソフトで優しいお人柄への憧れと健康の為に、怖いもの知らずで教室へ入会させて戴きました。下手な横好きで、お酒が入るとカラオケでマイク離さない私ですが、案の定、詩吟は別世界でした。習い始めの頃は、滅茶苦茶な発声で、私ばかりに時間を費やし、教室の皆さんに大変迷惑をお掛けしました。こんな私を暖かく見守って下さった教室の皆さんに、この書面をお借りし、お礼を申し上げます。私は決して上手くありません。

昨今詩吟の奥深さに驚いています。この優勝を励みに「継続は力」なりの諺を信じ、地道に、今後「吟・礼・心・身」磨きに精進してまいります。教室、緑宗流の皆様、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

25 年度昇段テスト並びにコンクール 大会成績

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>優 勝 上岡 政廣 準優勝 吉川 勲 準々優勝 川上 昇 四位 石田 洋子 五位 柳井 孝三</p> | | <p>優 勝 加藤 緑絆 準優勝 宮内 緑郷 準々優勝 浅野 緑昇 上位入賞 片山 緑都 上位入賞 田中 緑夢 上位入賞 吉田 緑外</p> | |
| <p>優 勝 西尾 康子</p> | | <p>優 勝 津村 緑秀 準優勝 松本 緑遥 準々優勝 福永 緑獅 上位入賞 木下 緑鋒 上位入賞 島田 緑聲 上位入賞 林 緑寿</p> | |
| <p>優 勝 徳岡知江子</p> | | <p>優 勝 小谷 緑楓 準優勝 松本 緑州 準々優勝 岸 緑汀</p> | |
| <p>優 勝 大海 告子</p> | | <p>優 勝 西野 庄藏 準優勝 芝田新一郎 準々優勝 徳岡 純</p> | |
| <p>優 勝 徳岡知江子</p> | | <p>優 勝 石川 勲 準優勝 瑞翔 準々優勝 福本 洋翔 上位入賞 安田 稜翔 上位入賞 佳翔</p> | |



平成25年度昇格者並びに六段・新緑号取得者

名刺交換会

恒例の新緑号五段及び新六段以上の上位昇段・昇格者を師範と共に研鑽をねぎらう名刺交換会が平成25年6月25日（火）師範講習後午後8時より十三福祉会館で行われました。

箕輪緑隆会主催の挨拶にはじまり渡辺緑翔理事長の祝辞のあと上位昇段・昇格者の紹介、新緑号五段取得者の紹介があり、緑号の心構えや緑の会の説明をされた後、名刺交換会となりました。



六段
森田 緑淳



七段上師範
大岩 緑園



村上 緑眞



秦 緑杲



舟根 緑朱



廣瀬 緑瓊



有宗 緑滯

《新緑号》

七段への道、今ふり返り

治宮支部◇大岩 緑園

この度、七段上師範を戴きました。そんな器で有りませんが渡辺緑翔先生からも勧めてください、又、私自身ここまで休まず続けてきた事の証として、恥ずかしいですが頂戴しました。詩吟へのきつかけはまだ二十代の若い頃、友人に誘われて始めて目の前で聴いた詩吟「富士山」にすぐ感動し興味を持ったのです。

趣味の書道では漢詩や和歌を使いますが、漢詩は読みづらいものです。そんな事もあって漢詩に親しみ、すらすら読んで理解し、そして声高らかに吟ずるこの詩吟を、何と面白い趣味かと思つたのです。

その後暫くして稽古を始め、現在に至りますが、努力が足りなかったとはいえ、それはそれは私にとって、とても難しいものでした。くじけそうになりながら、それでも続けられたのは、やはり私は詩吟が好きなのでしょう。

七段をいただき、今、入会時からの日々がよみがえります。沢山の思い出を大切に、そして気持ち新たに、これからも渡辺緑翔先生の下、私の楽しみの一つとして続けていけたらと思います。

先生方、会員の皆さんよろしくお願ひいたします。

緑号を戴いて

松原支部◇有宗 緑滯

この度待望の緑号を戴き大変感激し嬉しく思っております。これもご懇切にご指導を戴いた山戸緑晨先生のお陰と、心から感謝致しております。山戸緑晨先生本当に有難うございました。心からお礼を申し上げます。又、松原支部の皆様にも大変お世話になりました。いつも暖かい言葉で励まして戴き、どれ程心強く思われたか分かりません。本当に有難うございました。

会社の定年と同時に始めた詩吟でございましたが、最初の心掛けが悪かったのでしょうか、中々上達する事が出来ず苦しんでおります。吟道の持つ奥深さに圧倒されつばなしの十年間であったなあと振り返っております。それ故か、奥深い森の中に迷い込んだ様な気分になった時期もありましたが、様々な事があっても、今日まで続けて来られましたのは、吟道の持つている計り知れない魅力と緑崇流の先生方、生徒の皆様との機に触れての暖かい交流があったからこそだと思います。

これよりは十年を一区切りとして「初心を忘れるべからず」の言葉を胸に精進して参りたいと思っております。今後共どうぞよろしくお願ひ致します。

第38回 府連出場者決定兼競吟大会

高槻現代劇場 平成 26 年 1 月 11 日 (土)



| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 五位入賞 | 四位入賞 | 準々優勝 | 準優勝 | 優勝 | |
| 團幸子 | 松永幸代 | 広瀬さち子 | 矢部加代子 | 長尾子ヨ子 | 片山美都子 | 中塚宏輝 | 林寿子 | 浅野滋夫 | 島田喜久子 | 福永直人 | 木下真次 | 西部重世 | 青野治子 | 石川洋子 | 加藤恭子 |

府連出場者決定兼
競吟大会成績

第38回 緑号・師範之部競吟大会

高槻現代劇場 平成 26 年 2 月 8 日 (土)



【師範之部 府連出場資格者】



【緑号之部 入賞者】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 井内緑叡 | 木原緑侑 | 福本緑景 | 米田緑海 | 辻川緑樟 | 赤川緑瑛 | 西岡緑春 | 山戸緑晨 | 松村緑圭 | 津村緑胤 | 中山緑山 | 若杉緑高 | 府連出場資格者 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 上位入賞 | 五位入賞 | 四位入賞 | 準々優勝 | 準優勝 | 優勝 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑園 | 緑詠 | 緑笙 | 緑鋒 | 緑聲 | 緑妙 | 緑萌 | 緑楓 | 緑飛 | 緑花 | 緑永 | 緑寿 | 緑秀 | 緑村 | 松野 | 浅野 | 福永 | 島田 | 松本 | 宮内 | 加藤 | 緑郷 | 緑絆 | 緑号之部 | 緑園 | 緑詠 | 緑笙 | 緑鋒 | 緑聲 | 緑妙 | 緑萌 | 緑楓 | 緑飛 | 緑花 | 緑永 | 緑寿 | 緑秀 | 緑村 | 松野 | 浅野 | 福永 | 島田 | 松本 | 宮内 | 加藤 | 緑郷 | 緑絆 |

緑号・師範之部
競吟大会成績

第四十二回日本クラウン
全国吟詠コンクール決選大会

日時 平成25年10月27日(日)
場所 日本教育会館一ツ橋ホール



五領支部◇宮内幸夫

「入賞のよろこび」と「希望」

この度は、第四十二回日本クラウン全国吟詠コンクール決選大会に於きまして、「入賞」を戴きました。

このような栄誉ある賞を戴きましたのは、偏に会会長箕輪緑隆先生を始め、担当師範であります白波瀬緑齋先生、同会派の諸先生方、先輩方の熱心であり、かつ厳しいご指導、そして吟を愛する仲間からの暖かい励ましがあった事の深く感謝しております。

さて私が詩吟を学ぶ目的の第一は「健康の為」であります。腹から声を出す事により、気分は爽快になり血行も良くなり体内脂肪も減らす事ができます。第二には諸々の漢詩を通

じて人生訓、叙情、叙事、哀愁、懐古など学ぶ事が出来「人生をより豊に」してくれます。そして第三には詩吟を通して知り合った方々との「絆、交流」です。

私は現在、大阪に住んでいますが出身地は山口県であります。子供の頃小学校では「学芸会」をやっていました。小学校一年生では「花咲じいさん」の主役を、二年生の時は「浦島太郎」の主役を演じた記憶があります。子供の頃は周りの子供より目立ちたがり屋で少しだけ声が大きく凶太い性格だったのかも知れません。しかし今は小心で、とても繊細な「優しい心根の持主」(笑)であると自負しております。

故宗家箕輪緑隆先生の言葉に「希望と努力」があります。これからも緑崇流の緑号の名に恥じないように「希望を持ってどこまでも努力を続ける」をモットーに頑張つて参りたいと思っております。緑崇流の先生方諸先輩方並びに詩吟を愛する仲間の方々、どうぞ今後共にご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第四十一回高槻市吟剣詩舞道
決勝大会優勝(二部)

日時 平成25年11月3日(祝)
場所 高槻現代劇場

五領支部◇後藤利夫

この度、第四十一回高槻市吟剣詩舞道決勝大会に於いて独吟の部二部で優勝出来、大変嬉しく思っています。これは偏に白波瀬緑齋先生のご指導

のおかげと心より感謝を申し上げます。また井内緑叡先生を始め教室の皆様や練習仲間達よりの励ましや助言もありました。特に今大会の予選審査の岸部緑煌先生、決勝審査をして戴きました中谷緑洲先生、本当に有難うございました。

もう二部では年令制限間近で、二位を飛び飛びに三度も戴きながら、浮き沈みが激しく、二部では優勝が叶わないのではと思いついていたところ、凶らずも優勝旗を手に出来、感謝感激で正直な所「ほっと」胸を撫で下ろした次第です。最後に緑崇流吟道緑水吟詠会にありがとうございました。



第四十一回高槻市吟剣詩舞道
決勝大会優勝(連吟)

日時 平成25年11月3日(祝)
場所 高槻現代劇場

笑栄支部◇中塚宏輝・浅野滋夫

『そして 晴れ』

ようやく夢だったメダルを手にする事が出来ました。三年位で取れるかなあ？ ナンテ

安易な気持ちで挑戦した連吟でした。銅三回、そして銀、今回輝きの！二人でどれ位悩みながら練習したのかな、お互いに頑張れば頑張る程に「アラ」が目立ってしまう…そんな六年でした。



でも今は楽しい思い出にかえて独吟をもう少し頑張つて見ようと思えます。渡辺緑翔先生これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

そして浅野さんありがとうございました。

(文 中塚宏輝)

淀川詩吟連盟主催
第二十九回吟士権者決定
詩吟大会優勝

日時 平成25年9月23日(祝)
場所 大阪コロナホテル



淡路トマト支部◇青野治子

この度は淀川・東淀川大会で優勝という栄誉ある賞をいただき身の引き締まる思いです。

渡辺緑翔先生は熱心にその都度、細やかにご指導下さり頭が下がります。心より感謝申し上げます。

理事長に就任された渡辺緑翔先生より賞状を手渡しして頂いた時は、感激で思わず目頭が熱くなりました。

以前十年余りお世話になつていた、十三北野教室を家庭の事情



で止めましたが「健康のために又詩吟を始めたら」と言ってくれたのも家族でした。十八年というブランクに不安もありました。

大会の時、お懐かしい皆様から声をかけて頂き励みに成りました。

大会の度、失敗の多い私に叱咤激励下さる諸先生、大先輩、そして淡路トマト支部の方々に感謝しています。

詩吟の難しさを痛感しているこの頃です。先生の教えを一つでも多く吸収して心に染み入る吟が出来る様：集中力を養って前向きに頑張りたいと思つていきます。



第二十二回

渡辺緑翔門下温習会

日時 平成25年12月8日(日)
場所 プラザオーサカ19階「淀の間」

ひよんなきっかけで昨年四月から、ゆる友支部で詩吟を教えて戴き、あつという間に月日が経ち、淀川・東淀川の大会では緊張のあまり、声が上がつてしまつたりしましたが、その中で教えて下さる渡辺緑翔先生や沢山の人に出会い、失敗してもいつも励まして戴いています。少し堅苦しいイメージが詩吟にはあつたのですが、教えて戴いている内に本当に楽しくなり、練習後には全員で仲良く話をしたり、お酒を飲まれていた中で人生の先輩としても、色々な事を学ばせて頂いています。

その中で渡辺緑翔門下生の集う「温習会」に出席させて頂き、また声が上がつてしまふか、ちゃんと声が出るか不安でしたが、無事に終えた後、沢山の方が私にお声をかけて下さり、とても心の暖かい優しい方ばかりで自分は恵まれているなと思ひました。沢山の方々に囲まれ、まだまだ若輩者ですが、一日でも早く上達できるように精進していきたいと思ひます。

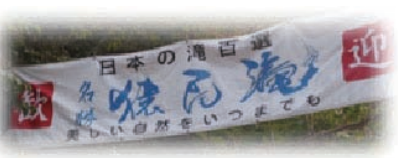
(文)ゆる友支部◇峠 飛鳥



緑の会「吟行会」

日時 平成25年10月13日(日)

初秋が嘘の様な、暑い日差しの中、43名の参加者は例の豪華な観光バスに乗車して、定刻に崇禅寺駅を出発しました。箕輪緑隆会会長先生の朝のご挨拶から始まり、4月から幹事長になられました辻緑樟先生のユー



モラスな司会と心配りで、高速に乗るなり喉を潤し(笑)一日の楽しさが目に浮かぶ様な気分でした。

赤松PAでトイレ休憩!十時過ぎから「猿尾滝」の見学。余り期待せずに下車しましたら「じゃえっ!」何

と県の指定文化財で日本の滝百選に入選している滝でした。猿尾滝の由来は下段の滝が猿の尻尾に似ている事



からだそうです。上段落差39m、下段落差21m、総落差60mの大瀑布が岩肌と自然林に映え迫力満点でした。

素晴らしい滝を後にして一路、湯村温泉「佳泉郷井づつや」に着!



着!

宴会場に入り、箕輪緑隆会会長



先生、顧問の畑野緑慶先生のご挨拶に続いて、副会長の浦田緑鴻先生の乾杯で宴が始まり、美味い料理と老若男女で楽しい舞台も盛り上がり、片や大浴場



や露天風呂でひとときの疲れを癒やされた方や、夢千代像のある夢千代広場等の散策、二時間はアツという間でしたが、入浴セツ

ト巾着袋をお土産に頂き、鳥取砂丘へ30分バスにゆられ「砂の美術館」に到着!世界から超一流の砂彫彫刻

家100名のメンバーで構成されていて、2006~2012年までに第5期を終了。

今回日本人のプロデューサー「茶圓勝彦氏」他17名のメンバーで第6期「東南アジア編」の「王朝の栄華とよみがえる神秘の国々」を表現して



いるとの事です。水を一切使用しない方法だそうです。アンコールワットを始め、屋外展示作品「少数民族」を入れて19個の砂像!ただ感動でした。素晴らしい美術を堪能



した後は、海産物のショッピングで、家族や仲間へのお土産を買って帰路につきました。帰りのバスの中は、辻緑樟幹事長のコミカルな司会で恒例のビンゴゲームが始まり、がんばって買って頂いた商品の面白い説明!帰りは、交通渋滞で少し遅れましたが、楽しい拍手と笑い声に時間を忘れるひとときでした。

後になりましたが、須磨緑泉先生、畑野緑慶先生のお心遣い、本当にあ

りがとうございました。そして何よりも、辻緑樟幹事長始め幹事の先生方の努力と心配りに感謝の気持ちで一杯です。最後になりましたが、緑の会の役員・幹事の皆様本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

編集委員 團 佳翔



クイズ

お殿様とおサルさんは誰でしょうか？



答え：A…会主会長先生&津村緑胤先生 B…渡辺緑翔先生&辻 緑樟先生 C…加藤緑紗さん&中野緑裕さん

大阪府詩吟連盟
結成五十五周年記念
吟詠剣詩舞道大会

日時 平成25年12月1日(日)
場所 高槻市現代劇場

当会より会主会長箕輪緑隆先生と常任理事、理事の役員が参加しました。

大阪府連加盟三十一流会派の理事による合吟には、当会と詩道翔風吟詠会、吟道哲水流八洲吟詠会の三流派合同で佐藤一斉作「佳賓好主」が吟じられました。又、第一部歴代吟士権者吟詠で渡辺緑翔先生、中山緑山先生、西岡緑優さんが独吟されました。



五領公民館開館25年祭で吟詠

日時 平成25年11月17日(日)
場所 高槻市五領公民館

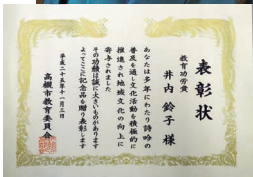


高槻市立五領公民館の開館二十五周年記念行事として使用しているグループの25年祭舞台公演があり五領支部の会員が吟詠を披露しました。

井内緑叡先生「教育功労賞」を受賞されました

高槻市吟詠剣詩舞道連盟の役員を多年にわたり務められた功績を認められ、平成二十五年十一月三日高槻市教育委員会より「教育功労賞」を受賞されました。

これからも、益々のご活躍に期待いたします。



シリーズ「多趣多芸」
五感全開!!

エイ、ヤー!

南方豊仁支部◇津村典子



氣迫の籠った掛声とともに、鋭く斬り込む。この時の静と動の合間に非常に魅力を感じます。ここぞと思う時に気を籠め、全霊で斬り込む：一番ワクワクする瞬間です。

もしタイムスリップが出来れば、いの一番に慶長十七年四月十三日の巖流島へ。ご存知、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘です。お互いどのよう



に心を読み、時間と空間の間合いを測ったのか？興味津々です。殺陣を始めて三年、まだまだ新参者ですがスパッと決まった時には、まさしく「武蔵参上」の気分です。発表会が年1回、太閤園であります。脚本から演出まで全てチームで行い、練習をしていきます。心の鍛錬を重ねながらチームの足を(多分)引っ張りつつ、五感全開！楽しんでいきます。

